**京のスクリプトの使用方法**

**プログラム一式**

pfinfo.pyはPythonで記述されたスクリプトでPFIファイルから開始ステップと終了ステップを取り出すものです。

k\_pbvr\_job.shはユーザが指定したノード数と分割数でpjsub用のスクリプトを生成するシェルスクリプトです。

**インストール**

k\_pbvr\_job.shとpfinfo.pyをパスが通っている所にコピーしてください。また両ファイルに実行権を付加してください。

**スクリプトのインターフェイス**

K\_pbvr\_job.sh -n node [–t thread] –vin input –pout output –d div

–e time –ld loadmodule [PBVR用オプション]

|  |  |
| --- | --- |
| オプション | 内容 |
| -n node | タイムステップ1分割当りのノード数を指定 |
| -t thread | 各プロセスのスレッド数を指定 (省略時は8) |
| -vin input | pfiまたはpflのファイルを絶対パスまたは相対パスで指定 |
| -pout output | 出力データのパスとサフィックスを指定 |
| -d div | タイムステップの分割数を指定 |
| -e time | ジョブの制限時間 00:00:00の形 |
| -ld loadmodule | ロードモジュールを絶対パスまたは相対パスで指定 |

ジョブ全体のノード数は、(node \* div) になります。

-tオプションとPBVR用オプション以外は省略できません。

上記コマンドを実行し、エラーが無ければ「pbvr\_script\_xxxxx.sh」が生成されるので、生成されたスクリプトをpjsubしてください。

**使用例**

$ k\_pbvr\_job.sh -t 4 -n 128 -e 00:30:00 -pout result/case -vin data/fork\_bin0.pfi pbvr\_server -d 4

generate pbvr\_script\_28216.sh

$ pjsub pbvr\_script\_28216.sh

**制約事項**

-vinで指定するPFIファイルまたはPFLファイルのディレクトリは1つにまとめてください。ステージングの関係でPFL形式の場合に複数箇所に点在する場合の考慮ができていません。

以上